

まほろば

2016 - 4月号

自然農園だより



宮下 洋子
Hiroko Miyashita

「有機産業の推進都市 槐山（クエサン） 槐山郡議会 海外研修 有機農業部 2016.3.20-3.24/ 日本 北海道 槐山郡」
……經理の齊藤さんに訳してもらいました。

私が口出ししないほうが良いようです

三寒四温で、行きつ戻りつしながら、確実に春らしくなってきました。

農園も、スタッフのがんばりで、ハウスの野菜たちも、例年に無く順調に生育しています。

今年はほとんどまかせっきりで、私は口出しをしていませんが、行って見ると野菜たちはきれいに揃って、ほどよい間隔で嬉しそうに育っていました。私が口出ししないほうが良いようです。

肥料もバランスよく、効き過ぎもせず、不足でもなく、今の所花マルです。

春から新体制

2年間、まほろばで研修した川合さんが、今年新規就農しました。どうしても札幌で就農したいという事で、農地を探しましたが、土地が余



この春から晴れて独立した川合さん

りにも高くて買う事が出来ません。貸してくれる人もなく、困り果てていたので、まほろばで借りている所を分けてあげました。どちらにしても、まほろばで販売するものを作ってくれるので、変わりはないのです。

張り切ってやっています。さて、今年はどんな野菜たちが店頭に並ぶでしょうか？楽しみにしていて下さいね！

まほろば自然農園グループ

元研修生の佐々木さんも、今年、新規就農したかったのですが、新しく土地を借りられなくて、認定農業者になる事が出来ず、これまでと同じように、まほろばが借りている土地の又貸しという形で、続ける事になりました。

今では小別沢にまほろば自然農園だけでなく、佐々木農園、川合農園、我満農園と、無農薬・無化学肥料で作ってくれるまほろばグループが増えました。できるだけ協力し合って良い物を届けて行きたいと思います。

スグレモノ!真空播種機!!

3月22日、高価な真空播種機が届きました。苗づくりの為の播種機です。今までトレーに一粒一粒ピンセットで種まきしていたのでとても大変でした。

それに、トレーに植えたものは、またもう一回ポットに植え替えなければいけないし、植え替えないでそのまま定植すると、植え痛みして成長が遅れたり、気温が上がると活着しづらくなってしまいます。



これが新兵器、真空播種機



真空播種機で蒔いた、発芽したてのレタス。

その点、真空播種機で植えた苗は、レタスやキャベツ、ブロッコリー、白菜など、大量に植えなければいけないものはとても助かるのです。ポット苗よりは小さいけれど、しっかりと一定量の土が崩れないで定植できるからです。

また、果菜類（トマト・キュウリ・ナス・ピーマンなど）のポット移植も植え傷みなく行える予定です（まだやっていないので）

キュウリのポット移植が一番リスクが高いので、今年は楽しみにしています。

播種機ではなく、何で真空播種機？

普通、農家さんは、コーティング種子（種子を造粒素材で包み、丸粒状に成型したもの。造粒素材で種子が大きく、均一のサイズになるため機械播種が出来るようになるだけでなく、手でまく時もまきやすくなる）や、シーダーテープ（テープのなかに一定間隔で埋め



込まれた種子)を使うことが多く、それによって種の無駄や間引き作業を軽減し、機械による定植や除草、収穫を可能にしています。

ところが自家採種の種は、コーティングされていないので播きづらく、小さい種は普通の播種機だと何個も一箇所に落ちてしまったりするので、苗づくりは一粒一粒ピンセットで播く事になります。

ところがこの真空播種機はスグレモノで、どんなに小さい種でも、きれいに早く正確に播けるのです。だから自家採種の種は真空播種機でないとけないのです。

うものです。真空トレーと言っても種の大きさによって空気の抜き方が違うので、

小さい種ほど軽く抜く事になり、本当の意味での真空ではありません。

その後、プラグトレーを機械から外して種の上に土をかけて出来上がりです。

手作業の方が真心がこもっているかも？

私もずーっとそう思って来ました。機械化はすればするほど愛情や心が抜けていき、良い野菜はつukれないのではないかと……

でも、最近は少し変わりました。色んな視点で見ると、そうでもないかも知れないと思うようになったからです。

ありのままに自然を覗いていると、雑草の種は風に吹かれたり、偶然の運命に身を任せ、自然に落ちて自然に発芽しているの

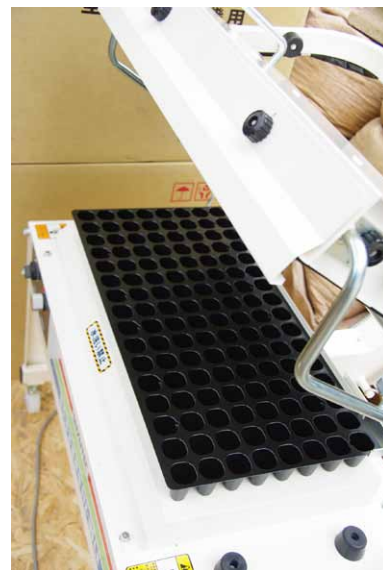
真空播種機のメカニズム

機械化と言っても真空播種機は全自動ではありません。種によって穴の数の違うプラグトレーに手作業で自家配合の土を入れ、種が落ちる所だけ穴が開くようになっている型を押し当てます。

それを機械にセットし、小さい穴がプラグトレーと同じだけ付いた吸着版に種を入れ、空気を抜いて種を1粒ずつ吸着させ、それをプラグトレーに押し当てて空気を入れて種を落とすとい



ほとんど見えないくらいの小さな穴



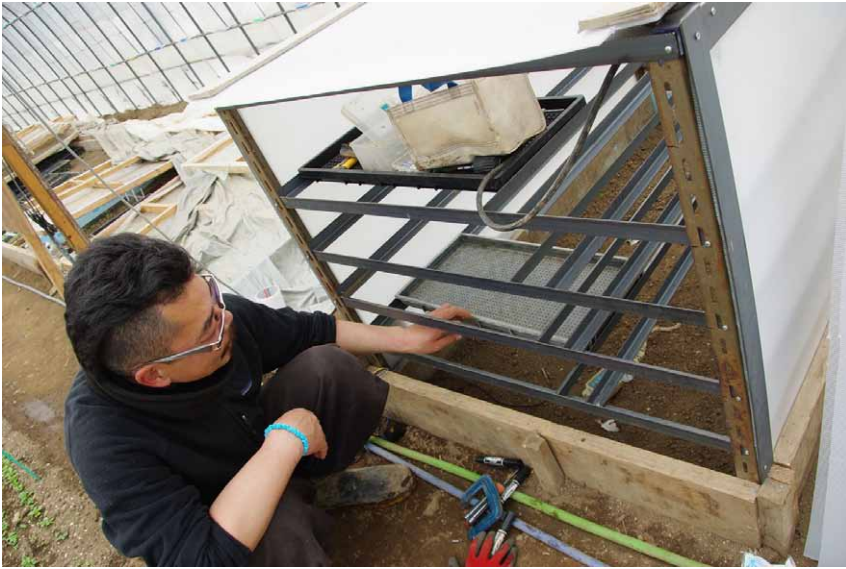
トレーをセット



スイッチオン



トレイと同じ数の穴が開いた吸盤機



土を入れたトレーは、福田君自作の保温機で発芽を待ちます。

す。そして、人は気にも留めないのに、その生命力の強靱な事！！種は人が手をかければかけるほど弱くなっているのかも知れません。そんな風にく生命の原点>に立ち返り、人間の思い込みや、こだわりやオセンチを超えて考えてみると、一粒一粒ピンセットで播くのと、真空播種機で播くのとどれほどの違いがあるのでしょうか？どちらが自然により近いかわかりかねるのです。

種の気持ち

種の立場になってみれば、一粒一粒ピンセットで播いてくれるのは過保護で煩わしいかも知れないし、私たちの思い入れはプレッシャーかもしれません。

それよりも、種に合った安全で栄養や菌叢バランスや水はけの良い土を用意してくれて、種まきを早くすませて、苗が大

きくなり過ぎない内に早く定植したり、日当たりや風通しが悪くならないように早めに草かきしてくれた方が、作物は嬉しいかもしれません。

まほろば農園のオリジナル培養土

まほろばでは苗づくりに、有機でも市販の培養土は使わず、まほろば農園の土に、有機JAS対応の天然土壌改良剤（パーライト・バーミキュライト・ピートモス・バイオ炭）や、ほかし



ピーマン用に調整したオリジナル培養土



種の気持ちや如何に？

肥料（ブラドミン）・天然石や貝類やサンゴから作られたミネラル・ヌカ（まほろばから）・もみ殻（まほろばのお米の生産者川本さんから）・エリクサー水・まほろば酵素などを、作物に合わせて自家配合して育苗用土を作っています。

これが大変な手間と労力ですが、ここでは絶対に手抜きはしないのです。

お客様はどのようにお考えでしょうか？

限られた時間と労力の中で作業する為には、機械化によって省力化出来る所は省力化し、大切なポイントはしっかり押さえて、メリハリをつけて余裕を持ってタイミングよく仕事をこなしていく必要があります。また、働く人の負担を軽くする事も大切だと思います。

その方が結果的には良い野菜が出来ると思うようになりました。

機械化にも色々あると思います。一つ一つについて、よく吟味しながら取り入れていけたらと考えています。

さて、お客様はどのようにお考えでしょうか？

いきなり訪問、韓国議員団

3月21日、何も前もって約束してなかったのに、<大韓民国チュンチョン北道クェサン郡>というところの議員団が、いきなり15名も観光バスでまほろば本店に現れてビックリです。



今年は順調に生育中！

聞いてみると、まほろば自然農園に有機農業の研修に来られたとか…わざわざ！…韓国から？？…こんな大勢！！

「なんでまた「まほろば」なんですか？」とお聞きしたのですが……調べて訪問先を決定し、スケジュールを組んだ人と、訪問された方たちとは違うので、よく分からず仕舞いでした。



なんと韓国の議員団が農園に！



世界オーガニック産業E X P Oの開催地だった！

クェサン郡議会のパク・ヨンソプ議長によると、クェサン郡は、去年9月から10月にかけて、世界オーガニック産業E X P Oが開催された所なのだそうです。

後でネットで調べてみると、<<このエキスポは、国際有機農業学会（I S O F A R）の主宰で、10のテーマ展示館と七つの屋外展示場などからなる、世界初、世界最大規模のオーガニックイベント。世界的に著名な有機農業の専門家による国際学術会議やフォーラム、セミナーなど、18回の学術行事も行われる>>など大層なところでした。

最大の関心事は？

農園に向かう観光バスの中でも質問攻めで、さすが議員の皆様、鋭く、シビアな質問も多く、まほろばの売り上げから農園の経営まで突っ込んで聞いて来られます。無農薬・無化学肥料・自家採種でどのように経営が成り立つのかと言うあたりが最大の関心事のようでした。



何でもありのままにお話し、経営者が無償で働いてきた事や、親会社であるまほろばの理解と援助、行政の援助、お客様によるボランティアなどによって成り立ってきた事を話しました。16年間は主として、いかにして、無農薬・無化学肥料で安全で美味しい野菜を作ることが出来るかだけに専念し、3年くらい前から、品質を向上させながら、経営的にも成立させる事が出来るか考えながら営農している事、まほろば農園は決して研修に来て頂くような有機農業の成功者ではない事、などを話しました。



皆さん熱心に視察していただきました。



有機認証は取っているのですか？

「日本に有機認証制度が出来てから、最初の2年間は取りましたが、毎年申請しなければいけないし、農場が6ヶ所にも分かれており、農場ごとに申請し、160種類以上も作っていたので、品目ごとに申請するのも大変で、お金も多くかかるので3年目から止めました。

まほろば農園は、有機JASで使用許可されている農薬も、自然農薬（酢や木酢、唐辛子など）も使いませんし、有機JASでも自家採種を推奨していますが、認定条件ではありません。有機JASより厳しい基準だと思います。

有機JASを止めても、ありがたいことにお客様は増えているので、まほろばの信用がブランドだと考えています」

クェサン郡議会の方々が、「まほろばの信用がブランド」という言葉に深く感動されていたのが印象的でした。何か私、調子に乗ってカッコいいこと言ってみたんです。

韓国ドラマ大好きです

バスの中で、「韓国ドラマが大好きで、主人と仲良く見えています。なので、皆さんの韓国語に違和感がありません」と言うと、何となく親近感が・・・

「どんな韓国ドラマが好きですか」と聞かれて「歴史ドラマをよく見ます」
『冬のソナタ』は見ましたか。
『ハイ、それが韓国ドラマの見始めです』・・・等、話は広がります。

まほろばの店頭で韓国のりが・・・

さすがに目ざとく見つけられて、何所から仕入れているのか質問がありました。



議員団訪問の一連の写真は、本店の武藤さんが撮影してくれました。

「日韓友好協会の後藤さんという方が主人の友達で、まほろばも日韓友好の架け橋になりたいと思って、そこから仕入れて販売させてもらっています。」

主人がいればもっと詳しく説明出来たのにと残念でした。

経理の斉藤さんが翻訳

実は、まほろばの経理の斉藤さんも韓国ドラマが大好きで、韓国語まで勉強してしまいました。私には読めない横断幕や名詞の翻訳は斉藤さんがしてくれました。

もうちょっと早く気がついていれば、紹介して会話に参加してもらえば良かったと、これも悔やまれます。そうすればもっと友好親善が深まったのに……

そんなこんなで、クェサン郡議会の有機農業の海外研修の少しはお役に立てたのでしょうか。忙しい一日でした。



まほろばも日韓友好のお役に立てたでしょうか？

世界オーガニック産業E X P O 韓国・槐山で開幕

【清州聯合ニュース】

韓国中部の忠清北道槐山郡で18日、「2015 槐山世界オーガニック産業E X P O」が開幕した。

エキスポは、米国や日本、ドイツなど26カ国・地域から264のオーガニック関連企業と約

620人のバイヤーが参加し、3回にわたり輸出商談会が開かれる。

組織委員会は外国人4万人を含む計66万人の来場を予想している。

経済効果は生産誘発額が1072億ウォン(約110億円)、所得誘発額が229億ウォン、付加価値が490億ウォンと見込まれた。また、1824人の雇用創出効果も期待される。



皆さまお疲れ様でした！